

和歌山県名匠

谷上 伊三郎

職 歴

大正2年養蚕学校を卒業後、初代善之助
(祖父)からひわだおき、こけらおき 檜皮葺、柿葺の技術を習得。
以来この道65年、家業に専念している。

業績の概要

大正6年、兵役を終えてのち、重要文化財
青岸渡寺本堂の柿葺に従事して以来、現在ま
で170余棟に及ぶ国宝、重要文化財等の屋根
修理にあたっている。

京都御所紫宸殿、桂離宮新書院、銀閣寺東
求堂、薬師寺金堂をはじめ本県では、根来大
傳院大塔、東照宮本殿・拜殿、丹生都比売神
社楼門・本殿の他、最近では広八幡神社に秀
れた手腕を発揮している。

また、後継者の育成にも熱心で、昭和30年
に発足した全国寺社屋根工事業組合の役員と
して技術向上に努力し、昭和49年度から同組
合が補助事業として行っている後継者養成の
教務主任として活躍を続けている。

昭和35年文化財保護功労表彰、43年勲六等
瑞宝章を受けているほか、53年には文化財保
護法による選定保存技術保持者として認定さ
れている。

現在、「檜皮葺の技術」(仮題)を執筆中
である。



檜皮葺・柿葺